

出題のねらい

大問Iは文法力と語彙力を問う問題です。高等学校の英語教科書で学ぶ基本的な文法事項や語彙・表現が出題されます。大問IIは空所補充形式で英文を完成させる問題です。文法力とともに、文脈を理解し、英文全体の意味を把握する力が問われます。大問IIIは会話文です。前後の文脈把握、会話のテーマへの理解力に重点を置いた出題となっています。大問IVは長文読解問題、児童への英語教育における読み聞かせを活用した新たな指導方法について述べた文章ですが、英文の要点に関する理解度を問う出題です。大問Vは並べ替えによる英文完成問題です。語句を並べ替え、意味の通る正しい英文を完成する力を問います。

[I]

【解答】 (20点)

|   |   |   |   |   |   |   |   |    |   |
|---|---|---|---|---|---|---|---|----|---|
| 1 | ③ | 2 | ② | 3 | ② | 4 | ① | 5  | ② |
| 6 | ④ | 7 | ④ | 8 | ① | 9 | ① | 10 | ① |

(2点×10)

【解説】

- too good to be true で、「話がうますぎて本当とは思えない」の意味です。  
cf. This problem is too difficult to solve. 「この問題は難しすぎて解けない。」
- what everyone likes about him で、「彼に関し、みんなが気に入っているところ」という意味です。what は先行詞を含む関係代名詞で、ここでは the things that everyone likes about him と書き換えることもできます。前置詞の about がなければ、that's why everyone likes him となります。
- この文をふたつに分けると、A war broke out in July. Many refugees have fled their homes to safer places since then. となりますが、since then を since when に換え、July を先行詞とした形が問題文です。
- hardly ... when ~ で、「…するやいなや~した」という意味になります。  
cf. The car had hardly started when someone called my name. 「車が走り始めるとすぐに誰かが私の名前を呼んだ。」
- cf. The door is shut, so are the windows. 「ドアは閉まっているし、窓もそうだ。」  
cf. Bill can speak French, so can his brother. 「ビルはフランス語を話せるし、彼の弟

(兄) も話せる。」 so + 動詞、助動詞 + 主語の語順に注意。

- without anyone noticing で「誰にも気づかれることなく」の意味です。  
cf. I pass by without his seeing me. 「そばを通ったが、彼には見られずにすんだ。」
- is said が現在形であることに注意してください。to 不定詞以下の箇所は過去のできごとですから、is said to have been written (「書かれたと言われている」) と完了形になります。  
cf. He is said to be an actor. 「彼は俳優だと言われている。」  
cf. He is said to have been an actor. 「彼は俳優だったと言われている。」
- 仮定法過去完了の用法です。If Dr. Noguchi had known about the virus = Had Dr. Noguchi known about the virus (「もしもそのウイルスについて野口博士が知っていれば」)
- make + 目的語 + 過去分詞の構文に注意してください。「父の手紙が家族全員に隠された事実を知らしめた」という意味になります。  
cf. I couldn't make myself understood in English. 「私の英語は通じなかった。」
- the apple of one's eye で「非常に大切な人、とても可愛がっている人」という意味です。

[II]

【解答】 (30点)

|    |   |    |   |    |   |    |   |    |   |
|----|---|----|---|----|---|----|---|----|---|
| 11 | ③ | 12 | ④ | 13 | ⑥ | 14 | ⑤ | 15 | ⑧ |
| 16 | ② | 17 | ⑨ | 18 | ⑩ | 19 | ① | 20 | ⑦ |

(3点×10)

【解説】

- 「人気のある観光地」という意味ですから、③の destination (目的地) が入ります。
- natural の後に続く名詞ですから、最も適切な語は④の environment (環境) です。
- stopping for two nights in hotels で「ホテルに2泊する」の意です。
- 前後の語句から、道路の両側にメタセコイアの並木があることが分かります。a long line of metasequoia trees とここには⑤の line が入ります。
- cool and attractive が修飾する名詞で、from the summer sun という前置詞句が続いています。「夏の日差しから逃れる涼しく、魅力的な木陰」という意味ですから、⑧の shelter (避難場所) が正解です。

- (16) 先行詞が the Kosei Road で、fast という形容詞に続く語ですから、道路に関連した語である② bypass がここに入ります。
- (17) are not in a hurry と書いてありますから、⑨の time が正解です。If you have time and are not in a hurry で、「時間があり、急いでいないのならば」という意味になります。
- (18) 動詞句の pass through に注意してください。「通り抜ける」場所ですから、⑩の tunnels が正解です。
- (19) array (整列、配列) という語に注意してください。土産物屋、レストラン、喫茶店といった店舗となる古い建物が並んでいるわけですから、①の buildings がここに入ります。
- (20) people sightseeing で「観光を楽しんでいる人々」です。

【Ⅲ】

【解答】 (15点)

|        |   |    |   |    |   |    |   |    |   |
|--------|---|----|---|----|---|----|---|----|---|
| 21     | ③ | 22 | ⑨ | 23 | ② | 24 | ⑦ | 25 | ⑥ |
| (3点×5) |   |    |   |    |   |    |   |    |   |

【解説】

- (21) 買い物に行かなくては行けないと言っていますから、冷蔵庫に何も入っていないのであろうと推察できます。③の We have nothing in the fridge. が正解です。
- (22) You know I love cottage pie. (「コテージパイが大好きなことを知ってるだろ。’) I really miss it. (「本当に寂しく思ってるんだ。’) と前後で言っていますから、⑨の I haven't had it for a long time. (「長い間食べていないよ。’) が最も適切な選択肢となります。
- (23) デザートについて話していますが、You know that's my favorite dessert. (「僕の大好物のデザートだって知っているだろ。’) と強くあるデザートを希望していることが分かります。強い希望を伝える表現ですから、②の I would really like to eat apple crumble. が正解です。
- (24) ここでは食材について確認しています。⑦の What do we need for that? (「それには何が必要なんだ?’) がここに入ります。
- (25) 買い物袋を取ってくると言っていますから、これから買い物に出かけるわけです。正解は⑥の OK, let's go to the store right now.

【Ⅳ】

【大意】

何年も日本で働き、ニック・アシュリーとアイーシャ・レビーンはこの国の英語学習への取組がいかに失敗しうるかを見てきた。「言葉を学ぶことが国際化への鍵だと人々は考えています。しかし、ビジネスの現場では、彼らは非常に恥ずかしがりです。意見を述べたくないのです。」とレビーンは語る。「たとえ、素晴らしいアイデア、より良い品、間違いなくより良いサービスを持っていても、ビジネスで日本人以外の人たちに物を売ることは困難です。英語とは関係ありません。ビジネスと人間関係構築への取組が自己主張を欠いたものになっているのです。」

子どもたちには自信を持って自らの意見を述べて欲しいと願っていたため、自らの子どもが産まれた後、言語学習への取組が彼女の中で大きな問題となっていた。レビーンは人気のある Bilingual YouTube チャンネルを運営しており、自主的な思考と自己表現の技術の育成を目的とする Teaser Question (TQ) Method という指導法を開発した。

「この家庭での新しい児童教育法を広めていきたいと思っていました。でも、どうするのが最善の方法なのか分からなかったのです。」とレビーンは言う。「子ども向けの本を親はみんな持っています。みんなが使っているのです。子ども向けの本を利用してこの方法を紹介するのはどうかしら?」

その結果が “My Moon, Your Moon” である。就寝時のお話と同時にレビーンの TQ Method の指導法資料でもあり、6月に自己出版された本だ。英語と日本語の2か国語で執筆されている。指導法への適切な導入となっており、「両親と子どもは同じ立場でコミュニケーションすべきだ」という前提に立つ。会話への出発点として大人が子どもたちに尋ね、さらに、彼女が自分の子どもたちと行っているように、一日中継続できるような質問をレビーンは提供している。

「日本の親が私に話してくれたのは、日本では読書の時間は静かにし、集中力を高め、想像の世界に埋没するということでした。」と彼女は語り、日本の多くの主導的な教育者たちが読書は対話とは無縁であるべきと主張している点を指摘した。この話はレビーンを呆然とさせた。子どもと親の間の活発な対話こそがより重要な取り組みと彼女は考えていたからだ。

“My Moon, Your Moon” ではそれぞれのページ複数の質問が準備してある。「なぜ主人公は喜んでいると思う?」から「あなたの大好きなおもちゃは何?」まで多岐に亘るものだ。

「6ページ一枚ごとに謎解きのような質問をし、子供たちと会話を継続するよう親には薦めています。」レビーンはその本の中でこう書いている。「正解という答えはありません。これが重要な点なのです。」こうしたきっかけ

## 一般入試／英語(前期)

を通してより深い対話へと進んでいくのだ。

主にアシュリーが執筆し、スギタヨシコが絵を描いたこのお話はエミリーという名前の少女の生活を追っている。この少女はお月さまが大好きで、お月さまと二人きりで遊びたいと願っている。ただし、話の流れの中では他のお月さま大好きの子もたちに悲しい思いをさせてもいるのだ。

「主人公の名前は私の娘と同じです。娘もお月さまが大好きなんです。」とアシュリーは語る。「“Goodnight Moon”という本のせいか、もしくはただ単にいつも外のお月さまを見ているためでしょう。その頃娘は手のかかる二歳児でした。全部自分のもので、分け合うことを嫌がっていました。」

アシュリーはいつも子ども向けの本を書きたいと思っており、日本に来た最初の数年間、千葉県柏市で教師として働いている時には、趣味として実際絵本を制作していた。昨年の夏、アイデアを提案した際、レベーンはアシュリーこそがうってつけの人物と分かっていた。同じ広告代理店で働いた後、二人は長年の知り合いでもあった。

ニューヨークに拠点を置くイラストレーターのスギタは推薦されてこの企画に参加した。「油絵なら20年以上描いてきました。ですから、この本は全く別物だったのです。」スギタは笑いながら話してくれた。「5年前、少女を描いた絵葉書を作ったところ、多くの人たちに気に入ってもらえたのです。誰かが絵本を手掛けるべきだと言ったのですよ。」

“My Moon, Your Moon”の実際の作成は比較的円滑に進んだ。どうやってこの本を出版するかを思案する段階になって困難が立ちはだかったのだ。「最初から出版社とは仕事をしなくなかったのです。」とレベーンは語った。

【解 答】 (20点)

|                |   |    |   |    |   |    |   |
|----------------|---|----|---|----|---|----|---|
| 26             | ② | 27 | ③ | 28 | ⑥ | 29 | ⑦ |
| (順不同OK) (5点×4) |   |    |   |    |   |    |   |

【解 説】

(26) she [Levine] wanted her kids to be confident expressing their opinions. 第2段落2行目

(27) The end result is “My Moon, Your Moon,” a self-published book released in June that’s half bedtime story and half instructional manual on Levine’s TQ [Teaser Question] Method, written in both English and Japanese. 第4段落1~2行目

(28) “Parents are encouraged to ask their children one teaser question for each of the six pages and carry a conversation with their child,” Levine writes in the book. “There are no correct answers. That is the essential point.” These prompts serve as a jumping off point for deeper conversation. 第7段落

(29) “The character actually has the same name as my daughter, who also loves the moon,” says Ashley. 第9段落1行目

【V】

【解 答】 (15点)

|    |    |   |    |   |      |
|----|----|---|----|---|------|
| 問1 | 30 | ① | 31 | ③ | (5点) |
| 問2 | 32 | ② | 33 | ④ | (5点) |
| 問3 | 34 | ② | 35 | ③ | (5点) |

【解 説】

(30) (31)

How about buying one for yourself at the convenience store nearby?

how about ~ ing? で「～したらどうか?」と提案する時の表現です。

(32) (33)

Mari, will you help me prepare for the barbecue party?

help + 目的語 + 動詞の原形で「…が～するのを手助けする」という意味になります。

(34) (35)

Excuse me, but could you show me the way to the post office, please?

show + 人 + the way to ~ で、「人に～までの行き方を教える」となります。